



## ■～X線むかしばなし～

こんにちは、放射線科です。

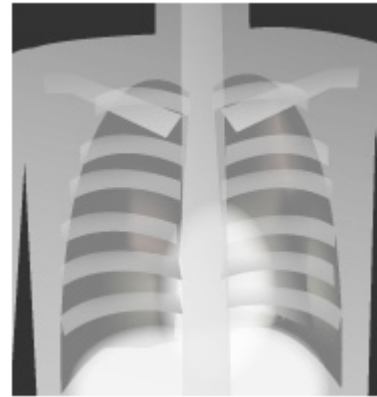
私たち“診療放射線技師”の日常業務のほとんどは、「産院」という特殊性から超音波検査が大半をしめています。しかし、件数は少ないながらもX線撮影業務もおこなっており、小児科に受診されているお子さんや、妊婦さんの場合でも必要に応じて撮影しています。

今回はそんなX線についての「むかしばなし」です。

X線写真とは別名レントゲン写真。そう聞くと、誰もが「あ～あれね。」とわかりますね。

このレントゲンとは人の名前で、X線を発見した人です。

ドイツの物理学者であったレントゲンは陰極線(電子の流れ)の研究中に、偶然X線を発見します。これは今から約120年前の1895年11月8日のことで、レントゲンが50歳の時でした。その後さまざまな実験をかさね、その不思議な光(X線)は分厚い本や金属はとおり抜けてしまうが、鉛では遮られてしまうこと、陰極線のように磁気の影響を受けても曲がらないこと等がわかりました。未知なる新種の線という意味でX線と名付けられたそうです。



翌年に入ると、レントゲンは妻の手のX線撮影に成功します。この指輪をはめた右手の骨の写真はとても有名で、ご存知の方もいるかと思います。その他の、何枚かのX線写真とともに発表すると、世界中にそのニュースは伝わりました。ただ、情報というのは伝言ゲームのように正確さが欠けてしまうこともあるようです。X線で人の体が透けて見えてしまう(服が透けて見えてしまう)という不安が広まり、「劇場でのX線オペラグラス禁止条例」ができた町もあったとか・・・

その後、多くの研究者の研究により、X線が医療に応用されるようになりました。

レントゲンはこのX線発見の功績により第1回ノーベル物理学賞を受賞しています。



ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン(1845-1923)  
ドイツ生まれ ドイツの物理学者  
1901年第1回のノーベル物理学賞を受賞

(出典:文部科学省)

今日のような医療の発展があるのはX線発見

があったからこそであり、現在では医療だけでなく工業、農業など様々な方面で利用されています。

担当:放射線科 木下 三千代